



大阪教職員組合 事務職員部報

Vol 678 2015.12.24発行 大阪教職員組合事務職員部常任委員会
大阪市天王寺区東高津 7-11 大阪府教育会館 7階
Tel. 06-6768-2330 Fax 06-6768-2239

年末ジャンボ当たればいいなあ

No.9 【定例号】

<当面の日程>

12.24(木) 対府交渉
(たかつガーデン カトレア)
1.29(金)~30(土)
大教組事務研
(アウィーナ大阪)

就学援助制度には運動の歴史がある!

就学援助学習交流会

十二月四日、たかつガーデンにて就学援助学習交流会を開催しました。
「教育と就学援助をよくする会」のとりくみについて、「東大阪生活と健康を守る会」より寺山初代事務局長と東大阪教組の小林さんよりのとりくみの報告をしていただきました。

昔は就学援助制度というものがありませんでした。しかし、給食費や教材費など保護者が負担しなければならぬ費用が今と同じようになりました。保護者から「義務教育なのになぜ学校に納めるお金がこんなに高いのか」と相談を受けた東大阪生活と健康を守る会が就学援助制度を作るとりくみを始めました。全国で一番最初に就学援助制度にとりくみ、作らせたのが東大阪市なので

です。しかし、最初は「教育補助」という名称で申請用紙も認定基準もなく、民生委員の「お目にかかった者」だけに鉛筆や消しゴムなどの現物が支給されるというものでした。そこから「お恵みではなく制度」にするために粘り強く市と交渉し、制度を作らせてきました。また、その後教職員組合やその他市民団体と「教育と就学援助をよくする会」を結成し、現在も市との懇談会や就学援助制



があることと合算されることも問題同居しているだけでその人には結婚や将来の生活のための収入であり、就学援助認定の所得計算は扶養義務がある者だけで行うべきと話ししました。
その後の交流では、未納対策のために、児童手当や生活保護費から天引きや差し押さえするのは問題であり、無償化をすすめていくことが大切であることや、来年一月から始まるマイナンバー制度を就学援助制度、医療券の発行等にも使おうとする動きが話されました。

★感想
・寺山さんのお話が面白く、楽しく勉強させていただきました。堺は所得基準も支給金額も低くて恥ずかしいです。いかに取り立てるかに追われています。まず根本的な考えから変えないと・・・。

・「未納が解消できるなら就学援助費でも児童手当でもこちらに回してほしい」という感覚になってしまっていたように思う。基本は「教育は無償」なのですよね。その感覚を持ち続けたいいけない、麻痺していったと思ひ知らされた学習会でした。

府労組連秋季年末闘争 府人勧の取扱い越年闘争へ

勧告通りの給与・一時金の引き上げは当然

十一月三十日、府当局は府労組連に対し、秋季年末要求にかかる総務部長回答を行いました。

今年四月より「給与制度の総合的見直し」にもとづく二%賃下げが強行され、民間賃金より低くなっている。この間の低い賃金水準によつて「大阪から人が逃げる」という深刻な事態が引き起こされています。

二〇一六春闘のたたかいと結合し、すべての労働者の賃上げ、非正規労働者の均等待遇など「人間らしく働くルール」の確立をめざすとともに、府人事委員会勧告にもとづく「あたりまえ」の賃上げ早期実施を目標して全力でたたかきましょう。

府人事委員会勧告にもとづく賃上げ要求について、総務部長は「人件費削減が基本に尊重すべき」としつつも「現在回答する状況ではない」と、引き続き協議を求めてきました。

府労組連は、当たり前の賃上げ要求にすら回答できない当局に対し「府人事委員会にもとづく賃上げは府当局の最低限の責任だ」と指摘しました。総務部長は「現在の公務員制度において人事委員会の勧告を尊重・実施するのは当然のことと考えている」との考えを示し、「現段階において回答できない」とは申し訳なく思う」と述べました。

★府労組連新春決起集会
一月十四日(木) 十九時より
エルおおさか南館ホール

第36回 大教組事務研究集会

■ 日時： 1月29日(金)~30日(土)
■ 場所： アウィーナ大阪

各分科会レポート決定!
詳しくは「なにわっこPR版第3号」を要チェック!

- 第1分科会 教育財政の民主化と公費教育の充実をめざして
- 第2分科会 たのしくいきいきとした組合活動をめざして
- 第3分科会 学校事務職員の役割
- 第4分科会 わたしたちの権利と地域住民との共同

まだまだ宿泊参加、日帰り参加ともに参加者募集中です!
一緒に学校事務の仕事のこと、教育のこと語り合いませんか?

お問い合わせは大教組事務職員部教文部まで
TEL 06-6768-2330

た。ある措置を強く求めていかねばなりません。

「現段階において回答できない」とは申し訳なく思う」と述べました。

「差額支給」って?・・・府人事委員会勧告にもとづく賃上げが決定されれば、平成二十七年四月に遡って賃上げ分の差額がまとめて支給されることとなります。

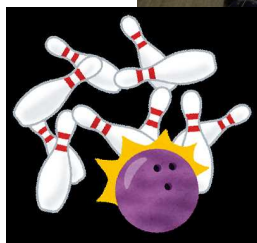
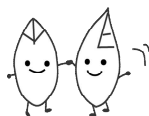


文化レクリエーション ボウリングの交流会

十二月五日、大教組事務職員部文化レクリエーション行事として「ボウリングの交流会」を開催しました。パーベキューやスポーツ大会など毎年様々な内容で開催していますが、今年はなんと千日前のラウンドワンでボウリングを行いました。レーン別のチーム対抗戦、個人戦を行いました。個人戦では女性陣には少しハンデがありましたが、最終スコアはほとんど差がない大激戦となりました。優勝はなんと、事務職員部長。このレクリエーションを開催する側ですが勝負にはこだわらる(?)部長が優勝の荣誉に輝きました。

終了後、近くのお店で懇親会も行いました。近畿ブロック事務研究会の推進委員会のメンバーも会議終了後懇親会に

に合流し、交流を深めました。学習会などで学習を深めることも大切ですが、組合員が交流を深めることが出来るレクリエーション行事も引き続き企画していきます。



対府交渉に向けて

第2回委員会

十一月二十六日、第二回委員会を開催しました。

山田事務局長よりこの間の経過と組合員の要求実現のための対府交渉要求書の決定を含め、公費教育充実・組織拡大・教研活動などのこれからのとりくみについて提案を行いました。各単組からは、堺の事務研・大阪市の若手JIMU職員の会や岸和田で



～単組・ブロックでのとくみから～

大阪市版若手JIMU職員の手

11月27日、大阪市内版「若手JIMU職員の手」の第二回目を開催することができました。

第一回目のテーマは、「給与の三手当」でしたが、今回は「転出入」について交流しました。「転出入があった時の校内の流れがわからない」「複雑な家庭の生徒が転入。するべきことは?」「市外の院内学級へ転出したが、数ヶ月で戻ってくる。このケース、生徒情報はどうしてる?」など、若手もベテランも悩みどころは同じ様なところでした。

前回よりも今回は、参加者が増えたことをささやかな喜びとエネルギーにして、次回にすすんでいきます。

(大阪市)

堺教組事務研究集会

11月28日(土)、サンスクエア堺にて第28回堺教組事務研究集会を開催しました。午前の部は調理実習を行いました。普段あまり料理をすることがない人もわいわい楽しく一致団結して料理を作り上げました。量も味もばっちりでした。午後の部は、学習会として「学校事務の全国の流れと情勢」、「権限移譲について」、「任務論」などたくさんのテーマについて学習しました。2017年度から始まる政令市への権限移譲については私たちの勤務労働条件の変更点や問題点が浮き上がってくる中で堺教組がきちんと交渉を地道に重ねていることで組合の大切さを改めて感じることができたと思います。任務論についてもこれからの学校事務職員のありかたを考えるいい機会になりました。



参加者も年々青年が増えている中、この事務研で新たな仲間を迎えることもでき、嬉しく思っています。

(堺)

の学習会のとくみ、そして組織拡大の実現、また、各市教委への粘り強い交渉などについて報告がありました。採決では、要求書・当面のとくみを包含する議案が全会一致で可決されました。

市街地の普天間飛行場

普天間基地の南一キロメートルほどに位置する嘉数(かかず)高台公園。一〇〇段はあろうかという階段を登った丘の上は、街中の喧騒を感じないほど静かでした。木々に覆われ、沖縄戦の慰霊碑がいくつもあるほかに、旧日本軍のコンクリート製のトーチカが残っています。一部崩れていますが、現在も銃眼は普天間基地方向を睨んでいます。あらためて、ここが戦場だったことを感じます。

一枚で隣りあわせる、沖縄の縮図を見るようです。普天間基地は世界一危険な基地と言われ、危険除去のため返還が決まったはずですが、辺野古新基地など基地移設の話などは、後から出てきたものです。とにかくここに基地があつてはならない。原点に立ち戻り、即時無条件返還しかありません。(常任)

日進月歩

最近、「はやぶさII」や「あかつき」。「こうのとり」など、日本の人口衛星が世の中の話題になっていきます▼私は、一九七〇年にラムダ4S型5号機で日本初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げられた時の思い出が浮かんできました。この頃までは、ロケット開発も東京大学を中心に、宇宙の探求や科学技術の向上を目指し、平和利用を目的にした研究開発が進められていたことを思い出します。テレビドラマの「下町ロケット」の中でも、技術の進歩が世の中に役立つことをめざして技術者が頑張っている様子に好感を持って観ています▼しかし、宇宙開発が、「はやぶさII」や「あかつき」・気象衛星・放送衛星など、人類に役立つ平和利用の影で、偵察衛星や通信衛星などによる、宇宙の軍事利用も平行して進められていることに危機感を覚えます。東日本大震災時の被害状況も、政府が偵察衛星で得た情報を、軍事機密を理由に十分な情報公開をためらっていたのではと危惧しています。得た情報を即時に公開し、救助活動に利用できていれば、もっと効果的な救助活動が出来ていたのではと残念に思います。宇宙開発が、科学技術の進歩と人類の幸福と発展のため、平和利用を目的にした方針に立ち戻ることを心から願うものです。▼そのためにも、安倍政権が強行成立させた「戦争法」を廃止するのとくみを大きくすすめ、戦争する国から、平和な日本へと方向転換させることが大切だと思っています。(N・S)

高台から北側を望むと、普天間基地の大部分を見ることが出来ます。滑走路、オスプレイが並ぶ駐機場など、テレビで見たことがある風景です。この日も、多くのオスプレイがそこに並んでいました。普天間基地全体を見わたすと、普天間基地はいびつな形をしていることがわかります。まるで欠けたパズルのワンピースのようです。なぜそうみえるのでしょうか。滑走路や芝生などを囲う基地のネットフェンスぎりぎりまで一般住宅が密集して建ち並び、整備された基地内の芝生や木々のグリーンとのコントラストが際立ち、基地の形が欠けたパズルのワンピースのようにみえるのです。ここからは見えませんが、二〇〇四年米軍ヘリが墜落した沖縄国際大学キャンパスもこのパズルピースに隣接しているはず

あらためて基地をみると、何よりも基地内のオスプレイと一般住宅との距離の近さに驚かされます。住宅地の真ん中での軍用機の離着陸は、事故の危険を強く感じます。そしてその騒音は、住民の生存権を脅かしています。ここはまさに、一般市民と米軍がフェンス